

## ソーシャルワークの理論と方法

問題 70 事例を読んで、保護観察所がAさんの特別調整の協力を求めた機関について、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(84歳)は、来月で6回目の刑期を終える。Aさんは帰る先もなく、頼れる人もいない。Aさんは「帰るところも探せないし、お金もない」と話しており、特別調整を希望している。矯正施設では、福祉専門官がAさんと面談し本人の意向を確かめた結果、特別調整対象者として判断したため、保護観察所に通知した。保護観察所長は、Aさんの状況を確認するために特別調整協力の依頼を求めることにした。

- 1 地域生活定着支援センター
- 2 養護老人ホーム
- 3 更生保護施設
- 4 障害者支援施設
- 5 福祉事務所

問題 71 問題解決アプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライアントのもつ主体的な意志の力に注目し、支援機関の活用を図る。
- 2 クライアントの動機づけ、能力、機会を把握して支援を進める。
- 3 クライアントが直面している危機状況に対して、短期集中的に働きかける。
- 4 クライアントへの直接的な支援とともに、個人を取り巻く環境に働きかけを行う。
- 5 クライアントが解決を望む問題について、目標と期限を設定し課題に取り組む。

問題 72 事例を読んで、この段階のA病院のB医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)が行った実践モデルやアプローチに関して、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Cさん(46歳, 男性)は夫婦で生まれ故郷に戻り, 5年前から喫茶店を営んでいる。1か月前に, 脳出血を患い, A病院でリハビリテーションを受け, 数週間後に自宅退院を控えている。BはCさんと退院に向けた面談を行った。Cさんは「左片<sup>ひだりかた</sup>麻痺<sup>まひ</sup>があるのは仕方がないとしても, 妻もまた一緒にお店をやっていこうと言ってくれているので仕事がしたい。地元の友達も戻ってきたら店に行くよと声をかけてくれているから」と語った。Bは「奥様もお友達もCさんがお店に戻ってこられるのを待っておられるんですね。お店に戻られるまで, どのように暮らしを整えていったら良いか, ご一緒に考えていきましょう」と提案した。

- 1 行動変容アプローチ
- 2 治療モデル
- 3 実存主義アプローチ
- 4 生活モデル
- 5 課題中心アプローチ

問題 73 事例を読んで、この時点でAさんを担当する若年性認知症支援コーディネーターが行った支援に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

総合商社に勤務するAさん(44歳)は、半年前から商品の発注ミスや大事な商談の約束を忘れてしまうことが度々あり、B上司と産業医の勧めにより認知症疾患医療センターを受診し、若年性アルツハイマー型認知症と診断された。先日、B上司から、若年性認知症支援コーディネーターに電話相談があった。「Aさんから、認知症だと診断されたと報告を受けた。実は、責任のある仕事を一人で任せることも難しくなった。Aさんが自信なさそうに仕事をしており、時折、休むようになった。落ち込んでいる様子もあり、周りの社員も戸惑っている。私も社員も認知症のことがよくわからないので、今後どのように対応してあげたらいいのか正直わからずに困っている」とのことだった。

- 1 Aさんの仕事のミスがなくなるように、諦めずに教えてあげてください。
- 2 Aさんの意向を聴いて、仕事のサポート体制の構築を検討してください。
- 3 Aさんの家族にはAさんの自尊心を尊重して今の社内での様子を伝えないようにしてください。
- 4 Aさんの短期記憶を活用できる業務への配置転換を検討してください。
- 5 認知症の理解を進めるために認知症の学習会を実施する場合は、ご相談ください。

問題 74 事例を読んで、地域包括支援センターのA社会福祉士がこの段階で行う援助に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Bさん(75歳, 女性)は、一人暮らしが不安になり、長男家族と同居することになったが、転居後すぐに自宅に閉じこもるようになった。心配した長男が地域包括支援センターを訪ね「以前は、社会的で友人と外出することもあったが、それがなくなり心配」と相談した。Aは、Bさんと数回の面接を行った。Bさんは「長男家族が食事内容を私に合わせて作ってくれるのが、申し訳ない」「人と話すのが好きで、前に住んでいた地域では毎日楽しかった。きっかけがあれば外に出たい」と語った。Bさんは要支援1の認定を受けている。Aは、得られた情報を踏まえてBさんの支援計画を立てようと考えている。

- 1 Bさんに元の地域に戻ってみても良いのではないかと助言する。
- 2 Bさんと長男家族との関係修復を行い、閉じこもりを解消する。
- 3 Bさんの食事は給食サービスを利用し、食事は家族と別にしても良いのではないかと助言する。
- 4 Bさんの社交性は強みなので、地域の茶話会への参加を促す。
- 5 代弁者として、Bさんの意向を長男に伝える。

問題 75 ソーシャルワークの事後評価に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライアントが望んだ場合においてモニタリングの前に行う。
- 2 クライアントの状況の変化に応じて行う。
- 3 ワーカーがクライアントのプランニングに至る前に行う。
- 4 結果評価の他、クライアントの主観的な満足度や支援者の関わり方について行う。
- 5 クライアントの希望や望みを聞き、エンゲージメントのプロセスに基づいて行う。

問題 76 コノプカ(Konopka, G.)の提唱したグループワークの原則に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 メンバー個々に新しい体験を付与することよりも、過去の体験を重視する。
- 2 援助者が積極的にプログラムに参加し、メンバーの問題を解決する。
- 3 グループ活動のルールを決め、メンバーの成長を阻害する場合には制限を設ける。
- 4 メンバー個人の相違点、及び当該グループが他のグループとは違う特徴をもつグループであることを認識するために個別化を行う。
- 5 メンバー間の相互作用の中で生じる葛藤は、表面化しないように働きかける。

問題 77 事例を読んで、地域活動支援センターのA社会福祉士がBさんの家族と面談を行った時点で用いた方法として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aは、複数の利用者家族から子どもの自立と今後についての心配があるという声を聞くことが多くなった。このことから、家族同士が不安を話し合い、将来の子どもの生活について考えるグループワークを行うことにした。Aは、その一環として開催前に参加を決定した利用者家族と個別面談を行った。面談の際、利用者Bさんの母親は「皆さんになじめるか不安です」と話した。AはBさんの母親がグループに期待していることや不安に感じていることを聞いた。

- 1 スクリーニング
- 2 波長合わせ
- 3 アイスブレイク
- 4 集団規範の形成
- 5 リーダーシップ

問題 78 事例を読んで、A相談支援事業所のB相談支援専門員が新任のC相談支援専門員に行ったスーパービジョンについて、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Bは、一人暮らしのDさん(60歳)からCが不在中に電話を受けた。「担当のCに体調が良くないことを話したら、病院に付き添うから明日一緒に行こうと言ってくれたんですが、先週から保険証(マイナンバーカード)が見あたらずに病院に行けないんです。明日も無理だと思うので断りたい」というものであった。Dさんを担当しているCに伝えると「Dさんは、昨日会った時にどうして言ってくれなかったんだろう」と落ち込み、どうしたらよいかわからない様子だった。Bは、Cにスーパービジョンを行った。

- 1 「DさんがCに話せなかったことをCはどう思っていますか」
- 2 「Dさんの安心のために保険証(マイナンバーカード)と一緒に探してあげてください」
- 3 「Cのような悩みはよくあることなので、あまり気にしすぎないようにしましょう」
- 4 「Dさんと約束した時の状況について詳しく聞かせてもらえますか」
- 5 「私に対応した類似事例を話すので、同じように対応してみましよう」